

うしくびいしざかかまあと  
牛頸石坂窯跡E地点

大野城市教育委員会



牛頸石坂窯跡E地点の場所 (1/25,000)

うしくびいしざかかまあと

牛頸石坂窯跡群は、上大利から牛頸にかけて広がる牛頸窯跡群の中の小グループの一つの石坂支群をさします。石坂窯跡群は、福岡中央霊園にのぼっていく道の周りに広がり、窯はその道の両側に点在しています。E地点は春日市野外活動場を建設する際に見つかった窯跡で、石坂窯跡群の中でも最も山奥にあります。



1は発掘調査当時の写真です。山の中腹に窯が3基並んで見つかりました。左から2号窯跡、3号窯跡、1号窯跡です。3号窯跡の灰原からはたくさんの須恵器や土師器・黒色土器（土器の表面を黒く燻した土器）・瓦が出土しました。この窯跡は、今まで9世紀代の窯跡が見つかっていない牛頸窯跡群の中で最も新しい時期のものでした。





2は1号窯跡です。床面が平らな窯（平窯）で、中は真っ黒になっています。中に薪をつめて焼いて炭をつくる「炭窯」です。出土した土師器から13世紀中ごろ（鎌倉時代）のものと思われる。

3は2号窯跡です。床面は傾斜しており、中には石が積まれていました。これは窯を壊した後に積んだものです。4は3号窯跡です。窯の幅が広く、最も広いところで約2mありました。この窯の灰原からは

5のような須恵器大甕が出土しました。この大甕は9世紀中ごろ（平安時代）のもので、3号窯跡は大甕を焼くための窯であったようです。これまでの発掘調査の結果、牛頭窯跡群では9世紀代の窯跡は見つかっておらず、8世紀終わりごろには窯が作られなくなるとは思われていましたが、この調査でその説が見直されました。

また、3号窯跡の灰原からは5のような須恵器大甕にまじってたくさんの土師器・黒色土器が出土しました。普通、土師器や黒色土器を焼く時には窯を使いません。

また大変な山奥にある窯まで土師器などをわざわざ持ってくることはないでしょうから、もしかすると同じ窯を使って須恵器や土師器などを焼き分けたのかもしれませんが。

窯跡は、6のように春日市のご好意によって野外活動場内に保存されています。ぜひ、一度ご覧ください。

